

# 青年の多数参加で大成功 2017公費助成対策・父母共同担当者会議

2017年度の私学助成運動の具体化を検討する「公費助成対策・父母共同担当者会議」が4月22～23日、東京麹町の全国教育文化会館を会場に開催されました。「見直し議論の年」という情勢の中、私学助成全国署名1,000万筆を再生し、就学支援金制度の大幅拡充を実現させる運動について、全国30都道府県から60名の教員と父母が集まり、熱い議論を展開しました。

## 「私学のあり方」が問われる公費助成をめぐる情勢 ～永島委員長あいさつ～

会議の冒頭、あいさつに立った永島民男中央執行委員長は、「私立小中学生への就学支援が実証事業ではあれ実施された。国会では『教育の無償化』の問題が、秋に予想される衆議院総選挙の争点となるという議論も起きている。憲法26条「義務教育は、これを無償とする」の私学への適用除外の誤りを正し、『私学の無償化』とともに『義務教育私学の無償化』の国民的合意をつくる上でも、私学のあり方と姿勢が問われる情勢。その情勢に応える議論を」と私学助成運動の到達点と会議の意義を述べました。



永島委員長

## 「授業料無償化」「入学金補助の創設」を全国へ…東京、埼玉、茨城

1日目第1部は、'17年度予算で「授業料無償化」を前進させた東京、埼玉、そして「入学金補助」を創設させた茨城からの報告でした。私学財団発行のパンフを活用した東京：増田さんの報告では、東京の運動の歴史が語られ、運動で実現した「授業料無償化」であること、年収760万円未満が対象とされた事で私立高校生の30%が無償化の対象となったこと、この財源として経常費助成が削減されそうになった事に経営者団体強力で反対した事などが語られました。埼玉：藤原さんの報告では、東京の30%がカバーされた事が、今年は無いただろうと予想していた授業料補助を年収609万円未満世帯まで授業料無償に拡充させた事が語られました。対県交渉で「都を越える」という発言があったことなど、行政が隣県を強く意識している様子がリアルに伝わる内容でした。茨城：横須賀さんの報告では、'16年7月の対県交渉の内容が詳細に報告されました。その中で全国他県の到達点を突きつけ、子どもたちの学校選択の権利剥奪を迫っていく事で入学金補助創設に至ったことが報告されました。運動を背景に制度拡充要求を突きつけることの重要性が確認される討論となりました。



茨城：横須賀さん



## 私学助成運動の鍵を握るのは私教連の動き…山形、山口、愛知

第2部では、制度改善に作り出す運動をつくる私教連の動きについての報告が並びました。山形では、2015年度署名数が10万筆を切ったことに危機感を抱き、執行委員会で学園配布等の状況を分析し、旧来の組合員1人100筆という約束事を基準に1家庭30筆を加え、学園毎の「死守目標」を設定して取り組んだ事が報告されました。この達成に向け役員が学園訪問を繰り返すなどの取り組みで前年数を上回る集約が実現しています。山口では対県交渉に県議会議員が参加するという全国でも稀な形が展開されています。20年ほど前に実現させた取り組みを現事務局長が奔走し3会派7名の参加を取り付けるところにまですみました。要請時当局に緊張感を持たせるだけでなく、県議員が私学の学費問題と私学助成制度について学ぶ場になるという利点が確認されました。全国で唯一目標数を超過した愛知からは、組織を強化する署名運動についての報告でした。「署名の質の向上」を旗じるしに、学級懇、クラス通信を運動化し、その上での教員1,673名、父母4,433名、生徒433人が参加した学習会を15校で128回開催し主体者を挙げた事、死守目標として掲げた目標をやりきらせるための県執行部による点検など、原則的な取り組みを徹底してやりきる先に目標数実現があることが確認された報告でした。

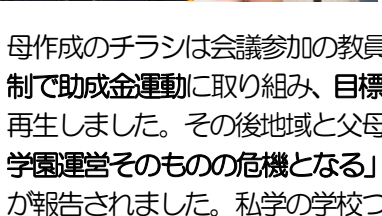


山形：大場さん

山口：井ノ上さん

## 生徒の成長をまんに父母とつながってこそ署名も前進…埼玉、岡山、広島、岩手

2日目午前、クラス、学園、県での父母、高校生の参加による運動の前進が報告されました。埼玉：正智深谷高校溝口さんは、子どもの主体的成長を願ったクラス実践を報告されました。その中でほぼ毎日発行のクラス通信によって父母とのつながりを築いた事、それがクラス実践を支え、校長の検閲をいくぐりながらたった一度掲載した私学助成署名強力のお願いで多数の父母が応えてくださり、署名簿の追加要望が出て学園1の集約数に至った事が報告されました。父母共同の原点が確認される報告でした。岡山：吉瀬さんからは、高校生戦後70年未来プロジェクトに参加した高校生の主体性に火が点き、愛知新歓フェスを契機に、岡山高校生交流会が生徒の力で再生し、運営も学習内容も高校生が自分たちの手だけでつくる私学助成学習会を開催した成長が報告されました。70名の高校生の参加を組織した岡山・倉敷駅前署名で1500筆を集約した事、県向け署名を高校生が自らの手で県知事に提出する処までの成長は圧巻でした。広島：益子原さんからは、4年連続で前年数を超過した広島の署名の4割を集約した山陽高校の原動力となった父母の活躍について報告されました。全国父母懇交流集会への参加が契機となり、私学助成署名運動のチラシを父母が作成するまでに至ったこと。広島の他校の父母と山陽高校の父母を会わせていく取り組みなどが報告されました。父母作成のチラシは会議参加の教員から「目からウロコ取れた」と大好評でした。岩手：水沢第一高校の及川さんからは、PTAと教職員が学園を挙げた体制で助成金運動に取り組み、目標の1万筆を超える事ができた取り組みが報告されました。水沢第一高校では一度学園存続が危ぶまれた時に地域の援助で再生しました。その後地域と父母との共同の中で、現在入学生・在校生ともに定員を上回るところにまで到達しました。しかし同時に「補助金がなければ学園運営そのものの危機となる」という認識が学園内で共有され、PTAに助成委員会が設置され父母、地域とともに私学助成署名が取り組まれている事が報告されました。私学の学校づくりにとっては、教育づくりとともに私学助成運動が位置づけられる事の重要性が確認される報告でした。



愛知：三浦さん

## 2017年度の運動に踏み出そう…大阪、神奈川

2日目午後には、大阪と神奈川から2017年度の運動の切り口になる報告が続きました。大阪：村井さんからは、すすめる会の核になる父母にどう参加してもらうか、デコ巻きすづくり、祇園祭りツアーなど楽しめる企画を通して「すすめる会の任務を引き受けても良いですよ」という保護者が登場してきたことが報告されました。神奈川：長谷川さんからは、この日開催されている「かながわ私学スプリングフェスティバル」の開催経緯と秋の全国父母懇を見通した「無償化の流れを神奈川へ」の戦略が報告されました。

## 私学助成運動の主体者が増やす…青年枠を活用した参加が目立った新たな展開に

今回の会議は、青年に私学助成運動と全国の取り組みに出会ってもらおうと「青年枠」を設定しました。青森、岩手、千葉、京都、広島、香川、熊本、宮崎がこの枠を活用して私学助成運動の主体者を増やす参加となりました。2017年度の新たな運動の期待が高まる会議となりました!



大阪：村井さん

神奈川：長谷川さん